

## 第9回合同研究発表会

# 地域の結びつきを強化・SCAN

~2018から高校生も参加

### 北海道学生研究会SCAN

2018年11月17日、札幌大学で北海道学生研究会SCANの第9回合同研究発表会が開催され、約80名が参加しました。

#### 北海道学生研究会 (SCAN) とは

北海道学生研究会 (SCAN) は、学生と企業と地域を結び付けることで地域活性化に貢献しようと2010年に釧路公立大学で設立された学生たちによる研究会です。Sophisticated Community and Academics for Networkingの頭文字から命名され、Scan (調べる) を通じて、企業・大学を含めた地域のつながりをよりよいものにしていくこと、地方の大学生が地域の問題について、学生ならではの研究成果を政策提言していくと活動が始まりました。

この活動は他の大学の学生を巻き込み、今日では北海道の大学生が参加する研究会に発展しています。

日頃の地域活性化につながる政策提言や活動プロジェクトの成果を年1回、合同研究発表会、またその研究発表の中でも最優秀に輝いた成果については、年1回、インターカレッジフォーラムで広く地域市民に対して成果を披露するなどの活動を行ってきました。



北海道学生研究会SCANの開会式

第9回目となった、2018年度の合同研究発表会では、従来の大学生による研究発表会の枠を超えて、地元高校生 (札幌新陽高等学校の皆さん) も発表参加しての大会となりました。

なお、2016年度の第7回合同研究発表会までは釧路公立大学で開催してきましたが、2017年度からは会場を札幌大学に移し、札幌大学の学生たちが事務局運営しています。また札幌に運営事務局を移転してからは、経済産業省北海道経済産業局、北海道銀行、北海道新聞社と連携強化し、定期的な会合を持ちながら産官学金の連携事業として、より実現性の高い政策提言を含んだ研究を目指しています。

#### 3チームに分かれて研究成果を発表

合同研究発表会の開会式では、北海道銀行地域振興公務部長の沼田和之氏から、「たくさんのステークホルダーに政策提言が出来ることを期待するとともに、学生ならではのフレッシュな感覚でどんどん発表してもらい、社会人の固定観念をぶち壊してもらいたい、またそこから真摯に学びたい。さらには日本経済の発展につながることを期待している」と学生にエールが送られました。

また、札幌大学の小山茂副学長からは、9月に発生した北海道胆振東部地震の影響により、参加校の減少が目立ったものの、本大会に向けて発表準備に尽力してきた参加校へのねぎらいの言葉が送られました。

今大会には、釧路公立大学、名寄市立大学、北海学園大学、北星学園大学、札幌大学、札幌新陽高等学校

の6校12チームが参加しました。

研究テーマは「地域コミュニティ」です。これまでの町内会や自治体組織といった地域コミュニティの枠組みを超え、新しい地域コミュニティの創造を通じて地域の活性化や再生を図ることの可能性を探ることが課題で、今大会は3会場で各4チームが研究成果を発表しました。

各会場には研究者と企業人で構成された審査員が配置され、発表内容に対しての質問や講評を述べるとともに、「地域コミュニティ」というテーマを基軸に、発想の新しさ、実現可能性の高さ、これからの期待などの項目で評価し、観光、地域、事業の3つの部門からそれぞれ1チームずつ優秀論文が選ばれました。

#### 「街あそび「人生ゲーム」を通じた地域コミュニティの創出と交流人口の拡大～岩見沢商店街編」(観光部門優秀論文賞)

札幌大学の中山健一郎教授のゼミAチームによる研究が、昨年に続き、優秀論文賞に輝きました。岩見沢市の人口減少に歯止めがかからない中、駅前商店街の撤退や廃業により、空き商店が増え、荒廃化が進むとともに、店主の高齢化による事業承継者不足の問題が深刻化しています。こうした中、岩見沢市ではまちなか再生計画を推進するものの、思うような効果が出ていないといいます。本研究では2012年からまちなか活性化の取り組みの一つとして、島根県出雲市ではじまった「まちあそび人生ゲーム」を岩見沢商店街に持ち込みました。岩見沢商店街の地域分析を踏まえた上、アレンジし直すことで、普段は人通りの少ない商店街に地元の人のみならず遠方からも人を呼び込む試みの社会実験を通じて研究をまとめました。

なお、人生ゲームとは、タカラトミーでお馴染みのルーレットを回してマス目を進み、就職や結婚、出産、マイホーム購入などの人生の様々なイベントを経て、億万長者を目指すボードゲームのことです。まちあそび人生ゲームとは、商店街をこの人生ゲームのボード

のマス目に見立てて実際に商店街を練り歩きながら、店主やゲーム主催者、ゲーム参加者同士がコミュニケーションをとり、ゲームを楽しみながら地域コミュニティを育むイベントです。

#### 「廃校活用を通しての地域愛の見直し」(地域部門優秀論文賞)

北海学園大学の宮島良明教授のゼミナールによる研究で、少子高齢化が進む地域には、「地域をより良くするために活動する住民同士のつながり」である「地域愛」が必要との視点から、どうすれば、地域愛が育まれるかを考えたものです。その可能性を石川県志賀町での廃校活用イベントを通じて、交流事業を展開することの重要性を明らかにしました。また、「地域愛」を北海道でも高めるべく、北海道夕張市の事例、津別町での取り組み事例を紹介し、自然とのふれあいを通じて若者が意欲的に地域の活動に参画できる取り組みが有効であることを示しました。

#### 「カジノ導入の是非について」(事業部門優秀論文賞)

札幌大学の武者加苗教授のゼミナールの研究で、2018年7月に成立したIR(統合型リゾート)法案により、北海道でのIR導入の可能性を検証しました。日本ではパチンコ、競馬等の娯楽が盛んであるものの、本格的なカジノは存在しません。IRはカジノのみの導入を指すものではないものの、各国都市のカジノ導入事例を通じて、日本でのカジノ導入のメリット、デメリットを考察しました。デメリットについては、大きくマネーロンダリングの危険性、ギャンブル依存症の増加、多重債務・犯罪等の社会問題が生じる危険性の3点が指摘されたものの、そのデメリットへの対策は制度設計の工夫や監視や管理により克服できる問題であると結論づけています。北海道では苫小牧市、釧路市がIR導入に意欲的な関心を示しています。立地上の観点、集客の見込み等を勘案すれば、IRを導入することに一定の効果があることが示されました。

### 高校生の発表参加

「東川町の取り組みをさらに発展させるために!!」(札幌新陽高等学校)

「RESAS\*を活用して美瑛町の実現への提案!!」(札幌新陽高等学校)

今年度は、SCANでは初めて高校生による発表が披露されました。札幌新陽高等学校探求コースに所属する高校1年生による研究で、東川町、美瑛町の2つの地域を対象に、RESASをうまく使いこなし、地域分析をした上で、政策提言をまとめました。

東川町については新・国際写真フェスティバルの企画の工夫を通じた国際交流の促進と、SNSを活用したイベント認知度の向上により、観光客増が期待でき、地域経済循環率を高めるとの提案が行われました。

また、美瑛町については自然、農林業が観光資源になるとの視点から、4泊5日程度の探求型体験ツアーを考案し、美瑛の観光を楽しみつつ、美瑛を学べる修学旅行の可能性を示しました。

このように、地域の課題、地域の実情をRESAS等のデータを使い、分析した上で、高校生ならではの視点から政策提言が行われ、大学生にはみられない斬新な発想はとても新鮮でした。SCANでは今後、地域問題に取り組む高校生にも発表の機会を広げていきたいと考えています。交流を通じて、高大連携事業や高大共同研究の可能性を今後も模索していきます。

### 2つのシンポジウム

今回の合同研究発表会では、このほか2つのシンポジウムが開催されました。

シンポジウムⅠでは「新しい地域活性の在り方を探る」と題して、えこりん村株式会社代表取締役の庄司開作氏、北海道ロケットストーブ協会代表取締役の金子正人氏を迎え、地域コミュニティを活用した、株式会社とNPO法人のコラボレーションによる新しい地域活性化の在り方が紹介されました。庄司氏からは恵庭市のえこりん村の事業展開について、また金子氏が



初参加の高校生

らは月形町で展開する北海道金魚祭りを事例にして、地域の枠を超え、人脈やネットワークを駆使することで地域コミュニティの無限の可能性と地域活性化のヒントが示されました。

シンポジウムⅡでは、「SCANの発展ビジョンを探る」と題して、2019年度に10周年を迎える北海道学生研究会SCANに向けて、これまでの活動を振り返りつつ、次の10年を見据えて、どうあるべきか、SCAN運営事務局の顧問を務める札幌大学の中山健一郎先生をモデレータに迎え、議論が行われました。

### インターカレッジフォーラム

2018年12月15日には釧路公立大学で、札幌での成果を地域に広く還元する第7回インターカレッジフォーラムが開催され、約70名が参加しました。

当大会では、釧路での地域活性化の現状を理解するために、「地域コミュニティ～これからの釧路の発展に向けて～」と題し、パネルディスカッションが行われました。釧路公立大学地域経済学センター長・教授の中村研二氏の司会で、パネラーに安藤誠氏（ウィルダネスロジック・ヒッコリーウィンド代表）、金子ゆかり氏（釧路港おもてなし倶楽部）のお二人をお招きしました。優秀論文賞を受賞した3報告の発表のほか、道外大学からの招待チーム、下山ゼミナール（奈良県立大学）による「ご朱印巡りが与える社会的経済的影響～奈良市全域の実態調査を通じて～」の研究発表も行われました。

\* RESAS（リーサス）

地方創生の取り組みを支援するため、産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約して可視化する地域経済分析システム。

※ 2019年11月には札幌大学で第10回合同研究発表会が開催される予定です。